

12月議会 振興環境委員会(振興部) しもおく議員

12月11日の振興環境委員会(振興部)での主なやりとりを紹介します。



中部国際空港の災害対策の強化を

国の「重要インフラの緊急点検の結果及び対応方策」の資料では、空港施設への浸水の恐れに対する対策がとりあげられています。

しもおく議員は、「中部空港でも真剣な改善が必要ではないか」と問い合わせました。県は、「中部国際空港では、現時点で必要と考えられる、高潮や電源施設への浸水などの対策は取られている」と答えました。

液状化対策についての質問に対しては、「中部国際空港は、良質な山土を利用する等の液状化対策を実施しており、液状化の影響は少ないことが確認されている」と答弁。

台風時などの走錨(船舶がいかりを下ろしたまま

流されること)に起因する事故については、「海上保安庁が検討会を立ち上げて検討している」と答えました。

しもおく議員は、「避難計画や早期復旧計画、滞留者への対応などの計画はどのようにすすめられているか」と質問。県は「国の検討委員会で、ソフト対策の検証を行うことになっている。国の検証作業の内容について注視していく」と述べるに留りました。

しもおく議員は、「中部空港が津波のリスクが高い空港であることは明らか。強力な対策の検討を強く要望する」と主張しました。



安全性が確保されていないリニアは中止を

しもおく議員は公共交通の安全確保に関する基本的見解を問い合わせました。県は、「公共交通においては、安全の確保は最優先で取り組むべきもの」との認識を示しました。

しもおく議員は、「リニア中央新幹線の地震への備えはどうなっているか」と質問。県は、「地震時に車両が脱線することもなく、地震に強いシステムである」と答弁。

「JR東海の対応は、国の大深度地下使用技術指針

等を踏まえたもの」との県の見解に対して、しもおく議員は、「JR東海の言い分を鵜呑みにするだけで何らの独自の安全策を考えていない」と指摘。「大量輸送交通手段の安全確保は公共交通の根本に関わる大問題であり、県民の命を守るべき県政の重要な構成部分だ。県として位置づけることを要求とともに、安全性がはっきりしない、ずさんな計画のリニアは直ちに中止すること」を強く求めました。

コミュニティバスへの支援を

高齢者や交通弱者の生活の足となる交通ニーズが急増しています。

しもおく議員は、「住民が、日常生活を営むための交通手段の確保をするための、県の役割についてどう考えているのか」と質問。県は、「広域行政を担う県の役割としては、市町村の地域公共交通会議に参画し、広域的な見地から助言を行うことで生活交通の確保を支援していく」と答えました。

しもおく議員は、「市町村任せではなく、県として財政支援を行うべきではないか」と追及。「県民の声にこたえて、県として、コミュニティバスなど生活交通充実へ思い切った支援を行うべき」とコミュニティバスへの県の財政支援を強く求めました。



